

| | | | |
|--|----------------------|-------------|--|
| 授業科目名： スポーツ（２） | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 1単位 | 担当教員名： 渋谷聡・秋澤一輝・住本純 担当形態： クラス分け |
| 実務内容 (実務家教員の場合) | | | |
| 科 目 | 体育 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 免許法施行規則第66条の6に定める科目 | | |
| 「学位授与の方針」との関係 DP4.個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけ実践することができる（実践力） DP5.共生社会創造の目的のために、様々な分野について絶えず学び続ける態度を持つことができる（継続力） | | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 【授業のテーマ】 体育 【到達目標】 (1)「する」スポーツ（特に自然環境を生かしたスポーツ）について理解することができる。 (2)「みる」スポーツについて理解することができる。 (3)「支える」スポーツについて実践することができる。 | | | |
| 授業の概要 「する」スポーツには、球技等だけではなく、自然環境を戦術として利用するものや、自然環境の中で行うものもある。また、スポーツとの関わりには、必ずしも「する」だけではなく、「みる」ことや「ささえる」こともある。 本授業では、「する」、「みる」、「ささえる」という観点から、スポーツの奥深さ、面白さ、楽しさ、課題について体験を通して学び、受講者の今後の人生が豊かになるための可能性を探っていく。 | | | |
| 授業計画 第1回：「する」スポーツ(1)自然環境とスポーツの関わり①身体的影響 第2回：「する」スポーツ(2)自然環境とスポーツの関わり②心理的影響 第3回：「する」スポーツ(3)自然環境とスポーツの関わり②社会的影響 第4回：「する」スポーツ(4)自然環境に対してスポーツが与える影響 第5回：「する」スポーツ(5)自然とスポーツの共生 第6回：「する」スポーツ(6)自然と関わるスポーツの実践 第7回：「みる」スポーツ(1)直接的な観戦（ライブ） 第8回：「みる」スポーツ(2)間接的な観戦（メディア） 第9回：「みる」スポーツ(3)2つの観戦の可能性（メリット・デメリット） 第10回：「ささえる」スポーツ(1)スポーツボランティアとは 第11回：「ささえる」スポーツ(2)スポーツボランティアの現状 第12回：「ささえる」スポーツ(3)スポーツボランティアの課題 第13回：「ささえる」スポーツ(4)スポーツボランティアの実践（生涯スポーツ） 第14回：「ささえる」スポーツ(5)スポーツボランティアの実践（アダプテッドスポーツ）第15回：「する」、「みる」、「ささえる」スポーツの関わり 定期試験 | | | |
| スクーリングでの学修 「ささえる」スポーツの課題や解決方法について、グループディスカッションといったアクティブラーニング手法や実践を通して学びを深めていく。（主に第10回～第15回の内容を含む）。 | | | |
| テキスト ・『環境白書 第2節 3 自然とのふれあいを生活の中へ』環境庁 https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/h10/10654.html ・二宮昌也（2017）「スポーツボランティア読本―「支えるスポーツ」の魅力とは？」悠光堂 978-4906873845 | | | |
| 参考書・参考資料等 ・スポーツ庁「アウトドアスポーツ宣言」 https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop09/list/detail/1399436.htm ・環境庁「環境白書 第2節 3 自然とのふれあいを生活の中へ」 https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/h10/10654.html | | | |
| 学生に対する評価 スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、科目修得試験（50%） | | | |